

広報

よせい

'84 3月 第312号



三毛狐の話

昔、古丹別の川尻に近い陣屋の裏山に三毛の夫婦狐が住んでいてここを通る人々をだましては喜んでいました。あるとき青年が歩いていると、美しい一人の娘があらわれ助けを求めてきました。手を取って歩いてから、ふと気がつく握った娘の手が三本指でした。